

人脳と電腦

市川浩

最近謂はゆる人工知能 (AI) の發達目を瞠るばかりにて、將來人間の知的活動の大部分を代行せむとの豫想實現の可能性大なりと云々。之を證するものとして近時注目を集むるものに二つの興味ある事例あり。

一つは圍碁・將棋ソフトの急成長にして今や一流専門棋士にも劣らぬ實力を有す。遂に先日將棋の佐藤天彦名人に完勝す。いま一つは人工知能にて東大入試合格を目指す國立情報學研究所の「東ロボくん」の開發なり。然るに數學、物理等にては高得點を出すも、國語は四年間の開發實らず、十分の得點なかりければ遂に昨年撤退表明となれり。

この二つ洵に對蹠的にて、特に成功への期待に就き、前者は名人に勝つなど夢の又夢と思ひけるも實現し、後者は入試には正解必ず存在する故、早晚實現せむと思はれながら、開發頓挫す。これを要するに、電腦は、長年の精進により類まれの天分を開花せしめたる天下一の名人に勝つも、特別の指導や勉學を前提にせざる一般高校生には勝つ能はずと。

茲に入試と電腦の關係に興味感じ、電網探索して、平成二十七年東大文科の國語問題第二問(古文)に至る。題材は平安後期の物語『夜の寢覺』の一節なり。内七カ所の傍線部分に就き設問あり。紙幅足らざれば、文中の和歌三首のみに就き設問に考察を試みむ。

ありしにもあらずうき世にすむ月の影こそ見しにかはらざりけれ

〔設問〕傍線部を現代語譯せよ

〔臆解〕以前の私ではなくなつて

〔考察〕「あり」「き」「にも」「ず」と單語としては簡單であるが、その組み合わせは辭書にも載らず、また「き」が自分の過去回想の助動詞であることなど判別を要す

つらけれど思ひやるかな山里の夜半のしぐれの音はいかにと

〔設問〕傍線部を必要な言葉を補つて現代語譯せよ

〔臆解〕貴女は薄情にも私を拒んでゐますが、こんな雨の日にはどうしても貴女のことを氣になり思ひを馳せるのですよ

〔考察〕問題文冒頭のこれまでの梗概を読み取らざれば「つらければ」の内容判らず

思ひいではあらしの山になぐさまで雪ふるさとはなほぞこひしき

〔設問〕傍線部はなぜか説明せよ

〔臆解〕故郷は忘れようと姉君と別れて嵐の山(嵐山)に近い此處での雪の思ひ出は慰めにならず、卻つて雪を積上げた山を姉君と一所に見たりした、ふるさとでの楽しい一時はやはりなつかしく思ひ出され、下の句となつた

〔考察〕「あらしの山」は冒頭梗概から讀取、またこの歌の詞書部分の「思ひいでなきふるさと」を受け「なほ」は「思ひ出さうとしなかつたがやはり」の意を籠む

電腦の利用法として近年脚光を浴ぶる「ディープラーニング」なる手法あり。新たに入力せる記録情報(對戦相手の指手、入試の問題文に相當)を、Monte Carlo tree search と呼ばるゝ無作為試行により、既に格納済の過去の記録情報との對比で自動的に評價を繰返すなり。これを電腦の立場より見ば、なすべき課題の複雑さに於て入試の方難度高しと言ふべし。また恐らく國語辭典など既に實裝済 なるらむ

を、受験高校生には辭書の利用固より許されざるに、合格點に達するあるは、電腦時代に於ける知的修練のあり方を暗示すめり。

口語の引用箇所表記は地の文に統一

(平成二十九年八月二十八日受附)